

# 1 3 梨の現状と振興方策

## (1) 中部地区の現状

- ◆ 県の約6割を占める主要産地  
県全体の梨栽培面積に対して、中部地区は約6割を占める梨の主要産地である。
- ◆ 新品種の導入  
二十世紀梨が中心品種であるが、新甘泉等の新品種の導入も進んでいる。
- ◆ 栽培面積は減少傾向  
栽培面積は、年々少しずつ減少している。

平成29年度梨栽培面積

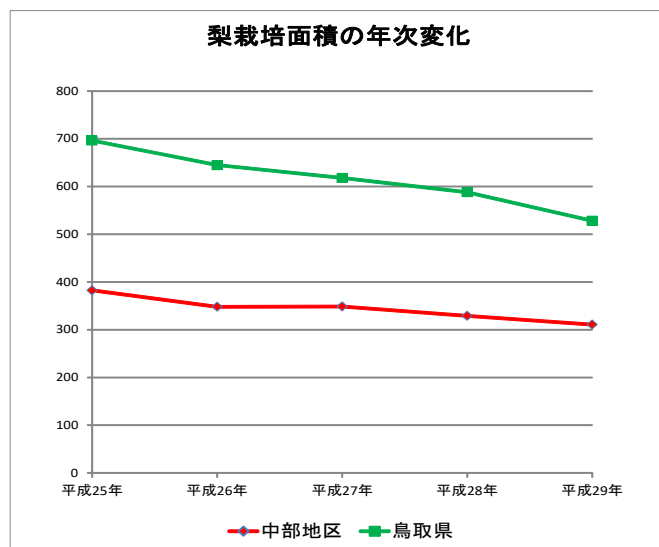
品種	区分		鳥取県(ha)	備考
	中部地区(ha)	鳥取県に占める割合		
二十世紀	186.6	62.0%	300.76	
ハウス二十世紀	14.5	75.2%	19.27	
新甘泉	33.7	53.4%	63.15	
なつひめ	13.2	65.7%	20.08	
その他品種	62.8	50.2%	125	
合計	310.8	58.8%	528.26	

※データ出典

- ・中部地区: JA鳥取中央販売課 栽培面積とりまとめ表
- ・鳥取県: 全農とっとり果実課 栽培面積とりまとめ表

梨栽培面積の年次変化

区分	年		鳥取県(ha)
	中部地区(ha)	鳥取県に占める割合	
平成25年	382.5	54.9%	696.3
平成26年	348.1	54.0%	644.7
平成27年	348.7	56.4%	618.0
平成28年	329.0	56.0%	588.0
平成29年	310.8	58.8%	528.3



## (2) 振興方策 (平成30年度)

- ◆ 鳥取梨生産振興事業 (単県事業)  
新品種・振興品種の生産拡大・高品質化を目的とした生産基盤整備等の支援
- ◆ がんばる農家プラン事業 (単県事業)  
意欲ある農業者等が行う創意工夫を活かしたプランの実現を支援